

第185回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2020年8月下旬
調査対象期間	2020年7月～9月実績 2020年10月～12月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,736社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	785社
回答率	45.2%
調査方法	調査票郵送により回収
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 [例:売上DIの場合] 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	35	34	49	15	35	28	3	44	243	31.0%	31.0%
5～10	73	20	9	10	39	12	7	16	186	23.7%	54.6%
11～20	73	16	7	5	19	11	10	4	145	18.5%	73.1%
21～30	30	9	1	3	11	10	11	0	75	9.6%	82.7%
31～50	24	7	2	1	4	7	8	1	54	6.9%	89.6%
51～100	17	7	3	1	3	6	5	3	45	5.7%	95.3%
101～	11	6	1	1	1	2	3	1	26	3.3%	98.6%
無回答	4	0	0	3	2	1	0	1	11	1.4%	100.0%
計	267	99	72	39	114	77	47	70	785	100.0%	
構成比	34.0%	12.6%	9.2%	5.0%	14.5%	9.8%	6.0%	8.9%	100.0%		



(製造業の内訳)

食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
5.0%	9.6%	1.5%	1.9%	3.1%	7.3%	6.1%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
3.8%	9.6%	0.4%	5.7%	32.6%	3.4%	10.0%

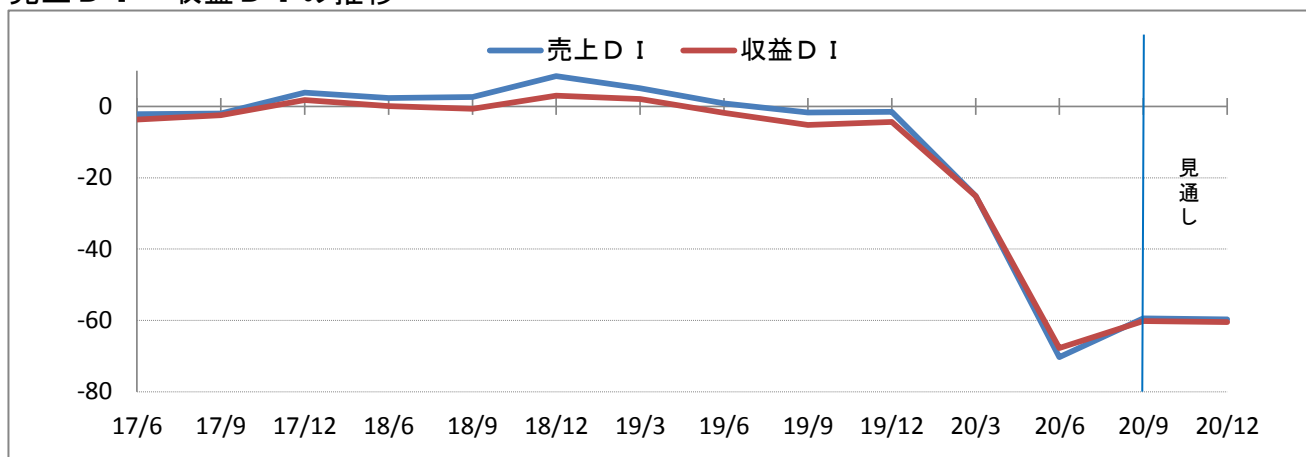
売上D Iは-59.4（前回比+10.9ポイント）、収益D Iは-60.2（前回比+7.5ポイント）と売上D I・収益D Iともに上昇しました。特に売上D Iは、不動産業が28.9ポイント、サービス業が16.3ポイント、運輸業が14.7ポイント上昇しています。売上が前年並みを維持できた企業は増加しましたが、製造業や飲食業ではそれぞれ-69.1、-76.3となり、苦戦が続いています。2020年10-12月期は、売上D I、収益D Iともに0.3ポイント下落すると予想し、中小企業は未だ回復基調にはなく、引き続き低調に推移しています。

経営上の問題点は「売上停滞減少」が77.6%（前回比△1.6ポイント）となり、依然最大の問題点となっています。

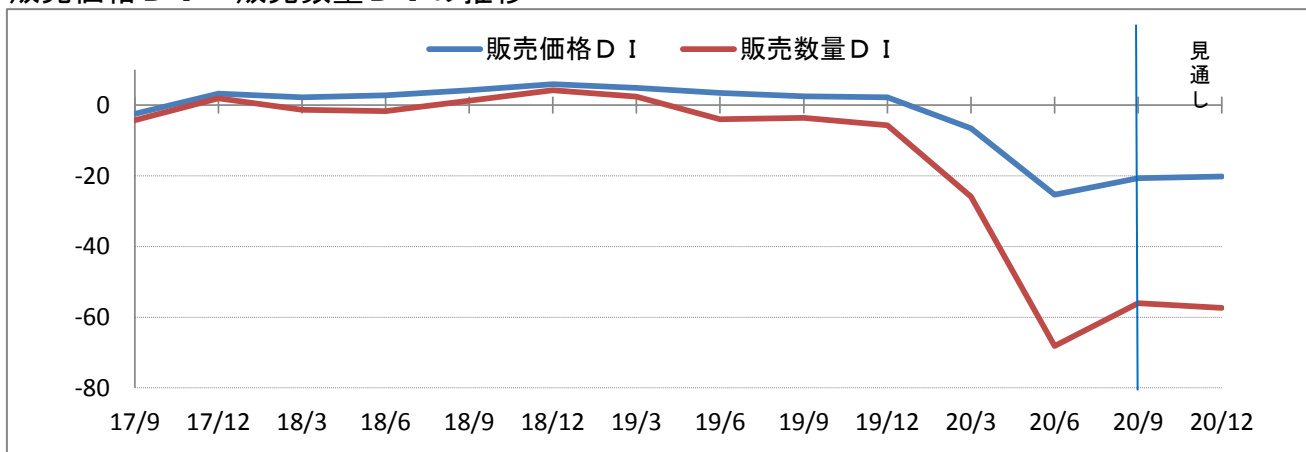
設備投資は「実施中」が11.4%（前回比△0.1ポイント）、「予定あり」が10.4%（前回比△0.7ポイント）で合計21.8%となりました。資金調達方法は「全て自己資金」が41.2%と多く、老朽化にともなう小規模な設備投資が中心ですが、中には、休業で遠のいた客足を呼び戻すため全面改装を行う飲食店や、生産管理システムを導入し三密解消と間接費削減を進める製造業もあり、「ウィズ・コロナ時代」を見据えた設備投資を行う企業もでてきています。

売上D I・収益D Iの推移

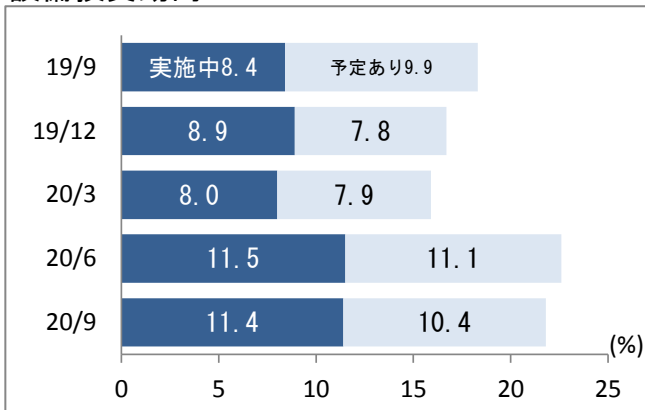
n = 785



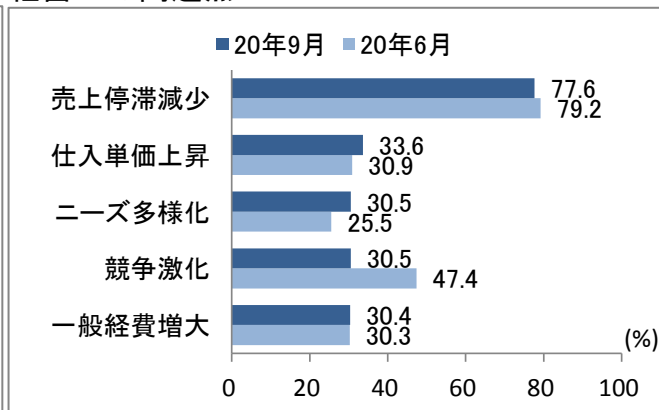
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：平山)

製造業

暗雲低迷 募る不安

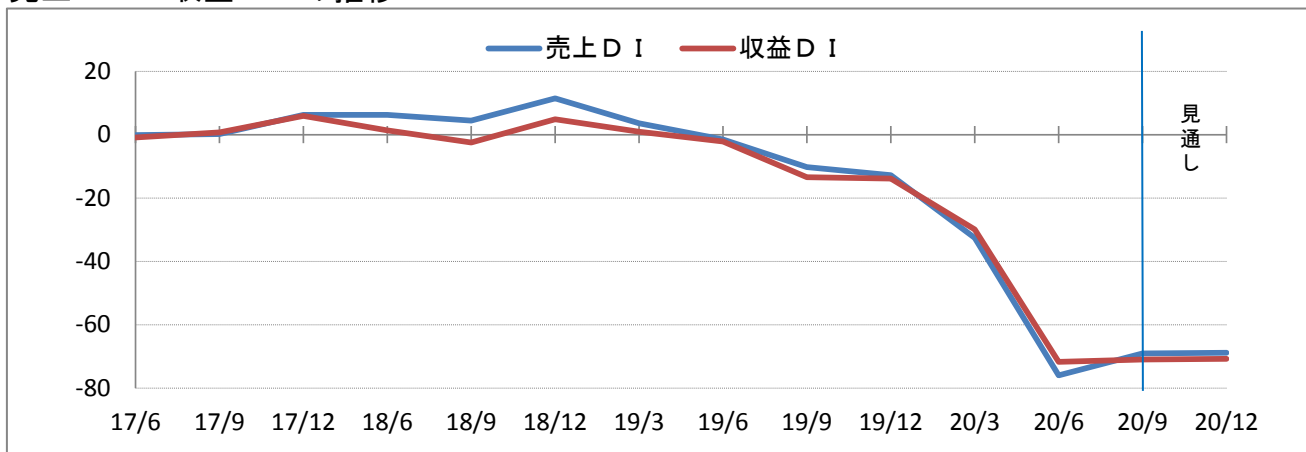
売上D Iは-69.1（前回比+6.9ポイント）、収益D Iは-71.0（前回比+0.7ポイント）と、売上D I・収益D Iともに上昇しました。取扱品で見ると、売上D Iの上昇が大きいのは、印刷、木材、ゴム・革製品で、前回調査からそれぞれ43.1ポイント、25.0ポイント、15.7ポイント上昇しています。

しかし、製造業全体では売上が増加した企業は少なく、回復には程遠い状況です。2020年10-12月期、売上D Iが0.3ポイント、収益D Iが0.2ポイントそれぞれ上昇すると予想し、厳しい状況が続くと考えています。経営上の問題点は、「売上停滞減少」が88.7%（前回比△1.8ポイント）と依然最大の問題点となりました。

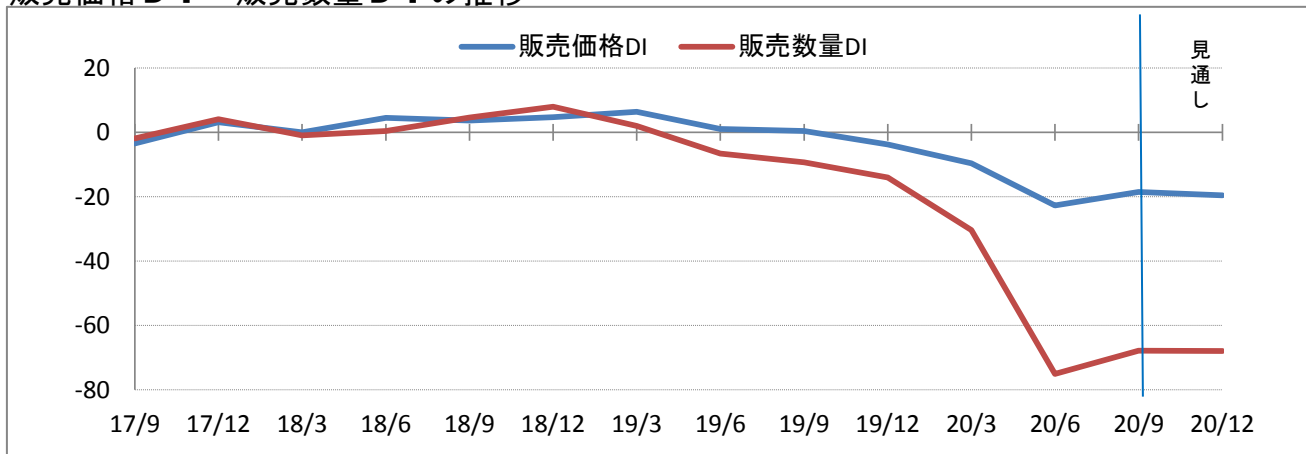
設備投資は「実施中」が13.1%（前回比+2.1ポイント）、「予定あり」が12.7%（前回比△2.1ポイント）で合計25.8%となり、設備投資意欲は堅調に推移しています。資金調達方法は、全て自己資金が45.2%となり、小規模な投資が中心と思われます。「助成金がなくなった後、どうなるか心配です」、「協力会社の廃業等の問題が、今後大きな問題となる」などの声が聞かれました。

売上D I・収益D Iの推移

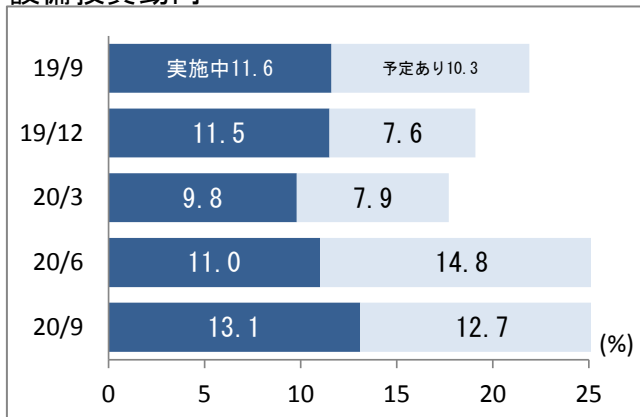
n=267



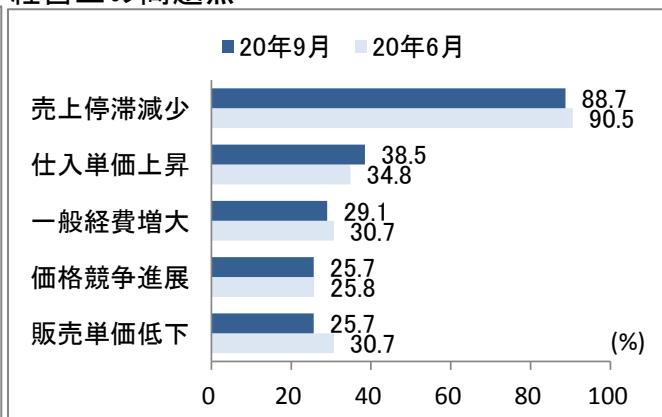
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：稲津、萩原)

卸売業

回復？先行き見通せず

売上D Iは-58.6（前回比+14.3ポイント）、収益D Iは-55.6（前回比+13.6ポイント）と、売上D I、収益D Iともに上昇しました。取扱品で見ると、売上D Iの上昇が大きいのは建築材料関連で、前回調査から33.8ポイント上昇しています。

2020年10-12月期、売上D Iは1.0ポイント下落し、収益D Iは0.5ポイント上昇すると予想し、年末商戦に期待できないと考えています。

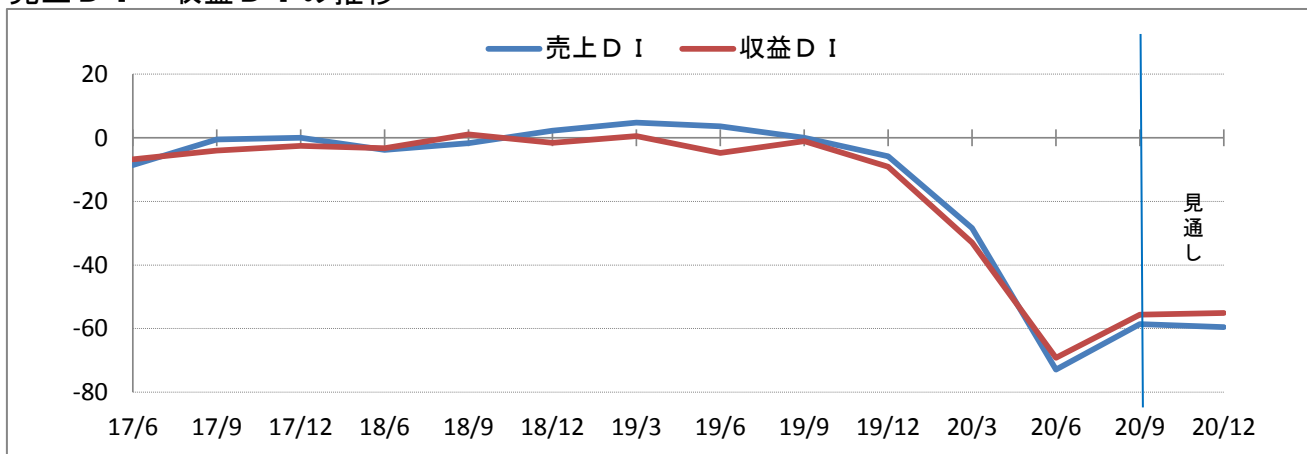
設備投資は「実施中」10.6%（前回比+0.7ポイント）、「予定あり」が5.3%（前回比+1.6ポイント）で合計15.9%となりました。資金調達方法は「全て自己資金」が66.6%となり、倉庫購入に踏み切る企業もありますが、小規模な設備投資が多いと思われます。

経営上の問題点は「売上停滞減少」が82.5%（前回比△6.5ポイント）と依然最大の問題点となり、引き続き厳しい状況は続いています。

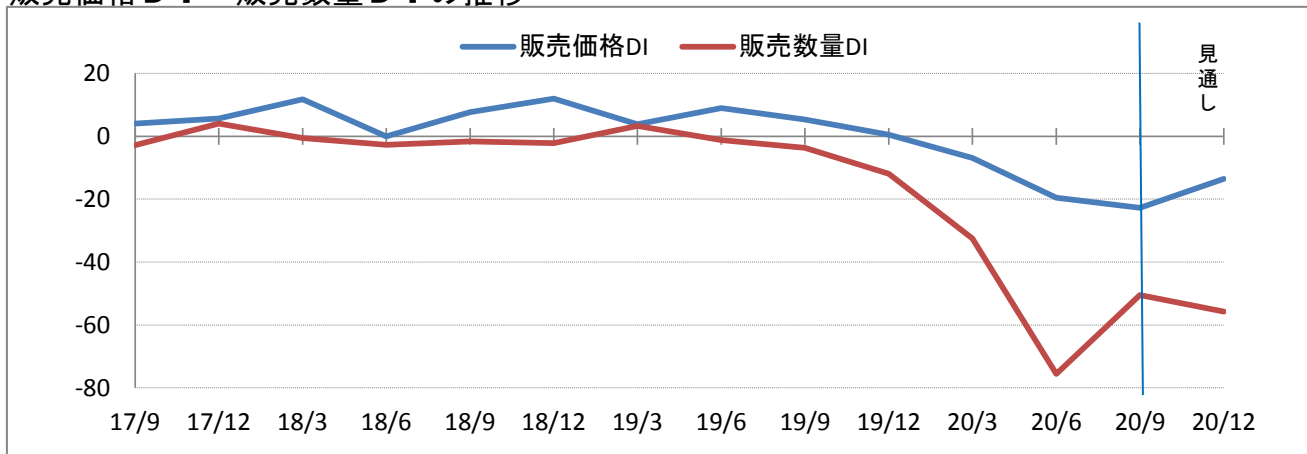
「デパート、小売店の閉鎖は素材や原料が販売できず一番困る」、「ホームセンターやネット販売が好調で苦戦している」、「十分な営業活動ができず、業績がじり貧になりがち」などの声が聞かれます。

売上D I・収益D Iの推移

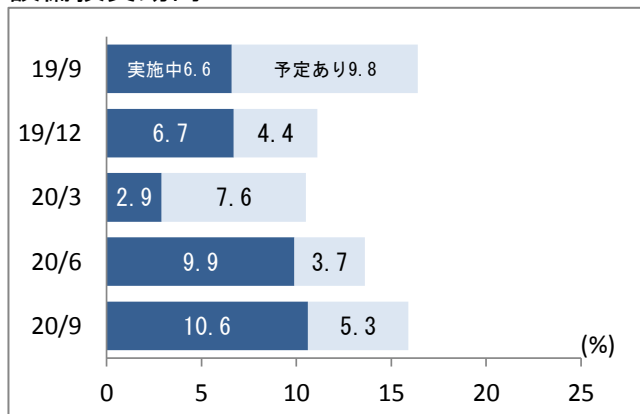
n=99



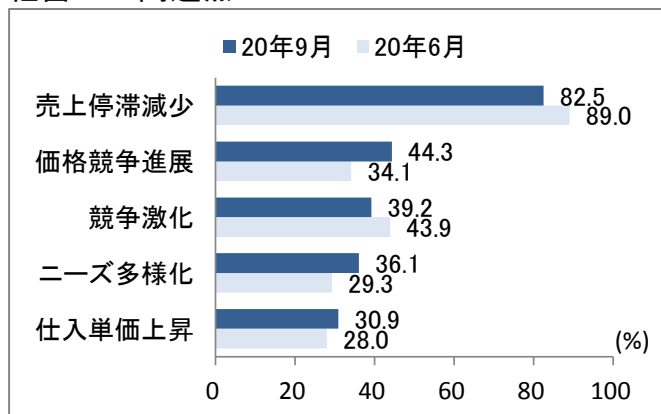
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：中村、藤村)

小売業

戻らない消費マインド

売上D Iは-63.9（前回比+14.0ポイント）、収益D Iは-58.3（前回比+14.0ポイント）と売上D I、収益D Iともに上昇しました。取扱品で見ると、売上D Iが上昇したのは繊維製品で、前回調査から25.0ポイント上昇しています。経営上の問題点は「売上停滞減少」が75.0%（前回比△0.1ポイント）と依然最大の問題点となっています。

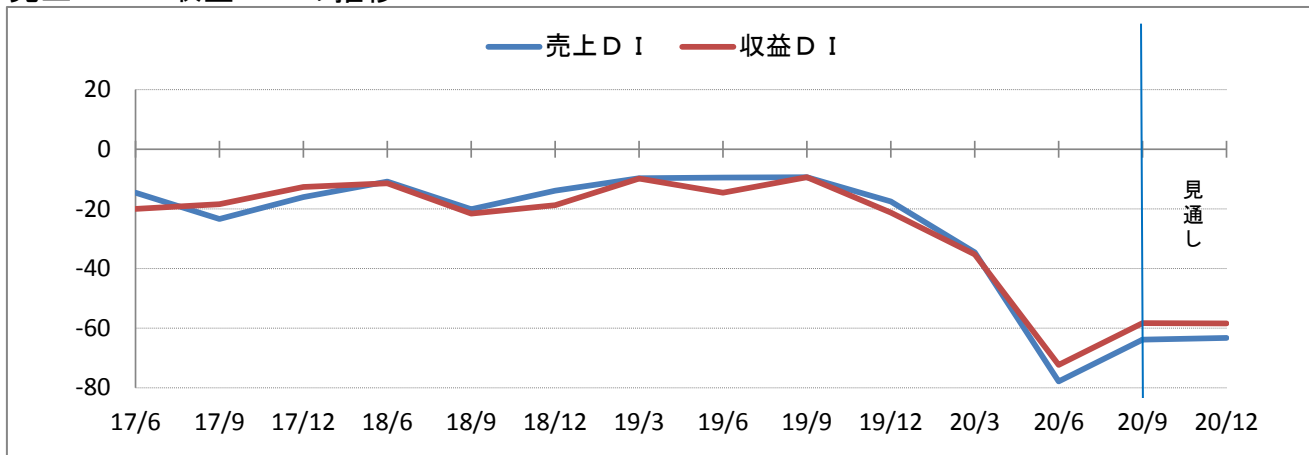
2020年10-12月期、売上D Iは0.6ポイント上昇すると考えていますが、外国人観光客の急減や消費者の外出自粛要請による影響は大きく、冷え込んだ消費マインド回復の目途は立ちません。

設備投資は「実施中」が7.6%（前回比+2.0ポイント）、「予定あり」が9.1%（前回比△0.8ポイント）で合計16.7%となりました。資金調達方法は、「半分以上借入する」が44.5%となりました。

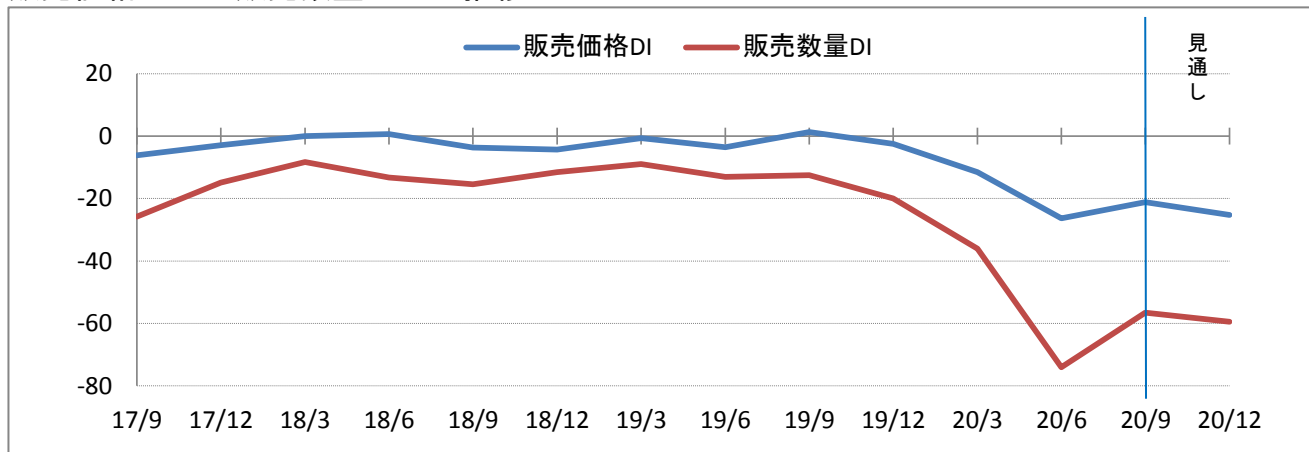
「家賃3カ月分待ってもらっています」、「営業自粛により消費者心理が低下、後ろ向きから前向きの気持ちに短期間で変わるのは至難の業」などの声も聞かれ、年末商戦を前に厳しい見方をしています。

売上D I・収益D Iの推移

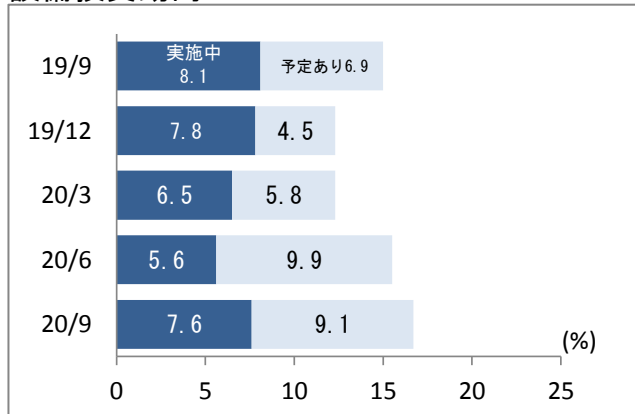
n=72



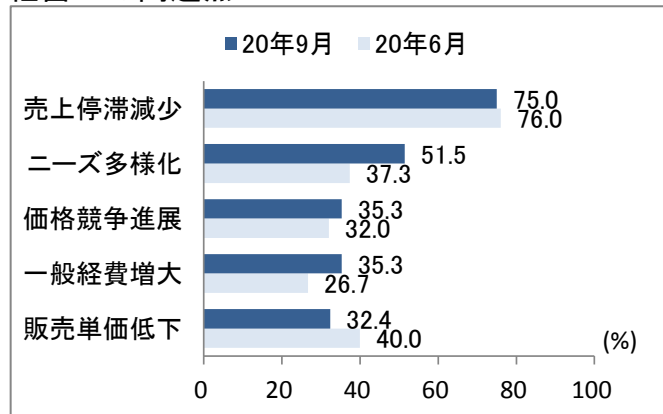
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：井筒、宗和)

飲食業

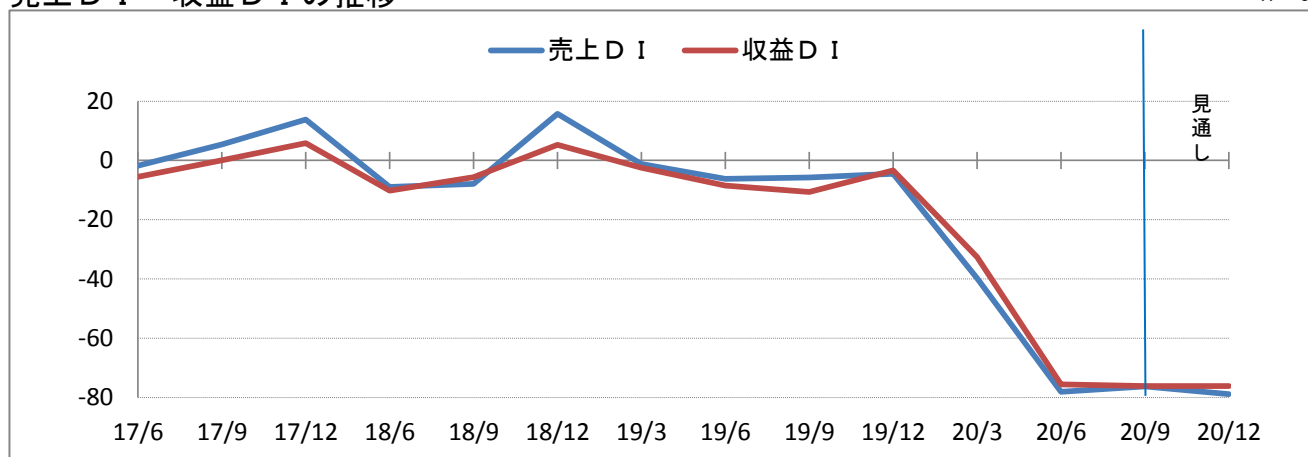
戻らない来店客 遠い回復への道のり

売上D Iは-76.3（前回比+1.8ポイント）、収益D Iは-76.2（前回比△0.6ポイント）となりました。インバウンド需要の減少や消費者の外出自粛要請により、経営上の問題点は、「売上停滞減少」が63.2%（前回比△6.0ポイント）と最大となり、厳しい経営を迫られています。天候不順で食材価格が上昇し、「仕入単価上昇」が50.0%（前回比+11.5ポイント）に上昇しています。休業要請解除後の来店客回復のペースは鈍く、感染症対策を行いながらの営業は続き、厳しい状況が続いています。販売価格D I上昇の要因は、テイクアウトでは価格を抑えて販売していましたが、外出自粛要請の解除後は客足が少し戻り来店客の販売価格を上げることができたほか、ウーバーイーツなど出前サービスを取り入れたことによる影響もあると思われます。2020年10-12月期、売上D Iはさらに2.6ポイント下落すると予想し、冷え込んだ消費マインド回復の見通しが立ちません。

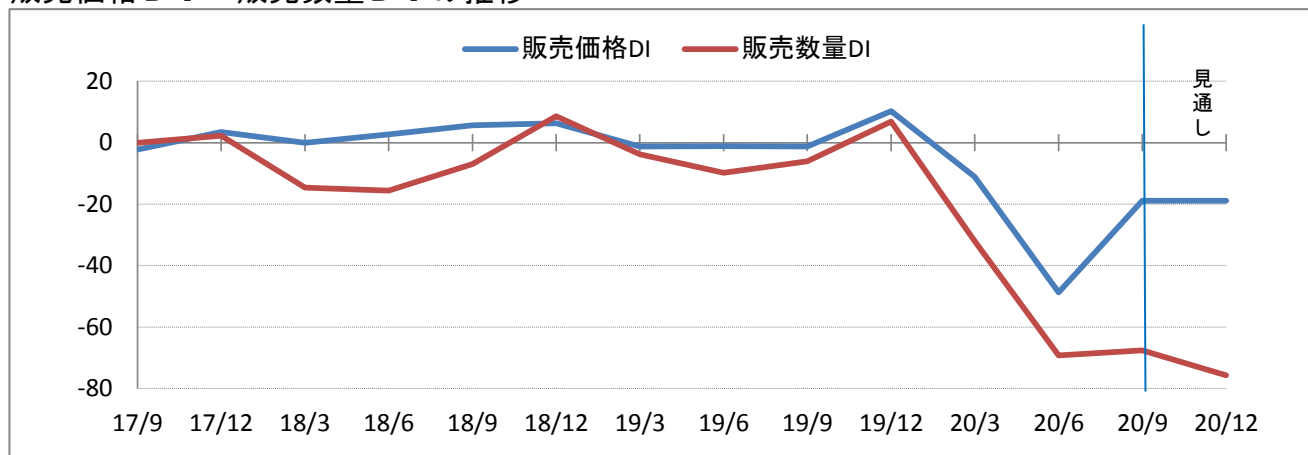
設備投資は「実施中」が11.4%（前回比△14.2ポイント）、「予定あり」が11.4%（前回比+1.1ポイント）で合計22.8%となりました。資金調達方法は、「全額借入する」が71.4%となり、中には、大規模な店舗改装を行い来店客の回復を狙う企業もあります。「相変わらず飲食業は厳しい、この状態が1～2年続くと店が潰れる」などの声が聞かれます。

売上D I・収益D Iの推移

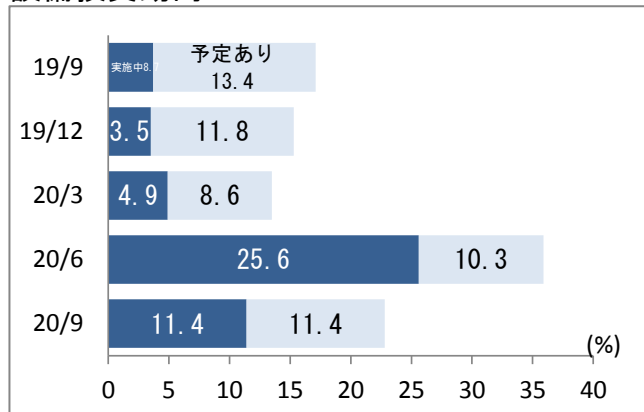
n = 39



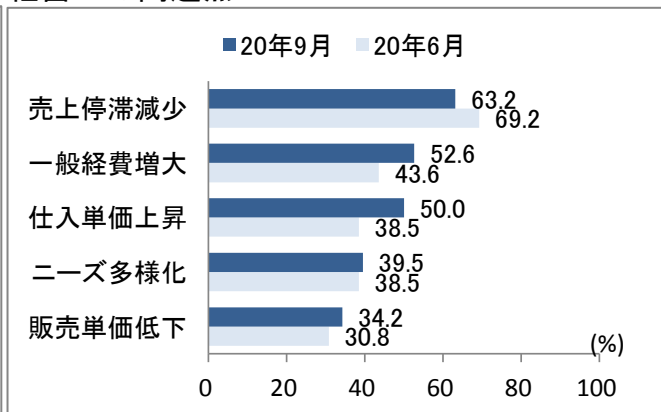
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：仲井、竹並)

建設業

新規受注見通し立たず

売上D Iは-40.6（前回比+5.8ポイント）、収益D Iは-44.2（前回比+5.7ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに上昇しました。遅れていた水回り設備の搬入も始まり、販売数量は上昇しています。

2020年10-12月期は、売上D I、収益D Iともにそれぞれ2.4ポイント、4.6ポイント上昇すると予想しています。

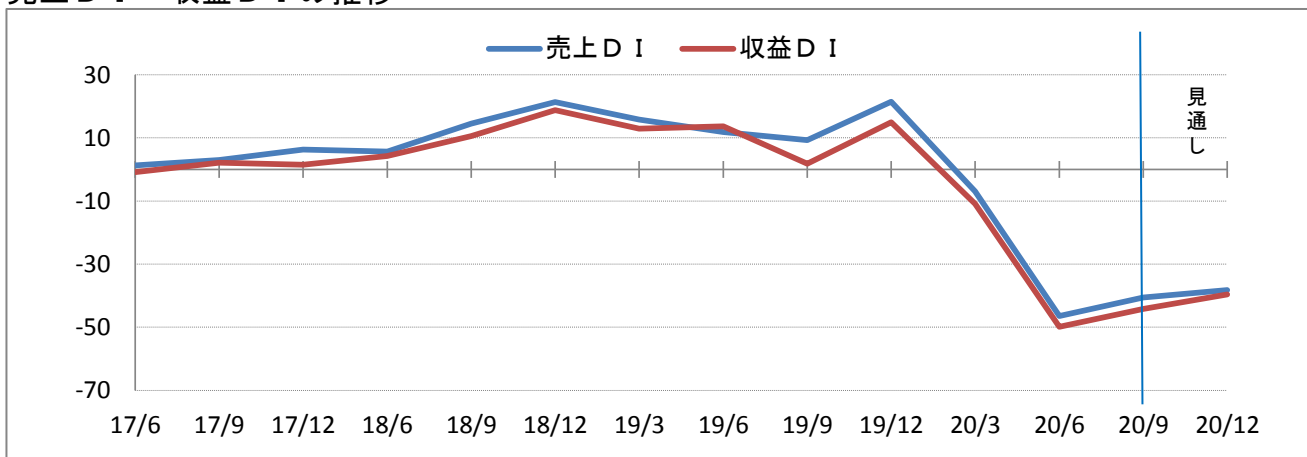
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が71.6%（前期比+5.2ポイント）と最大の問題点となりましたが、「人手不足」も50.5%（前回比△3.3ポイント）と根強い問題点となっています。

設備投資は「実施中」が11.9%（前回比+2.6ポイント）、「予定あり」が4.6%（前回比△4.7ポイント）で合計16.5%、資金調達方法は「全て自己資金」が49.9%、「半分以上借入する」が18.8%となりました。

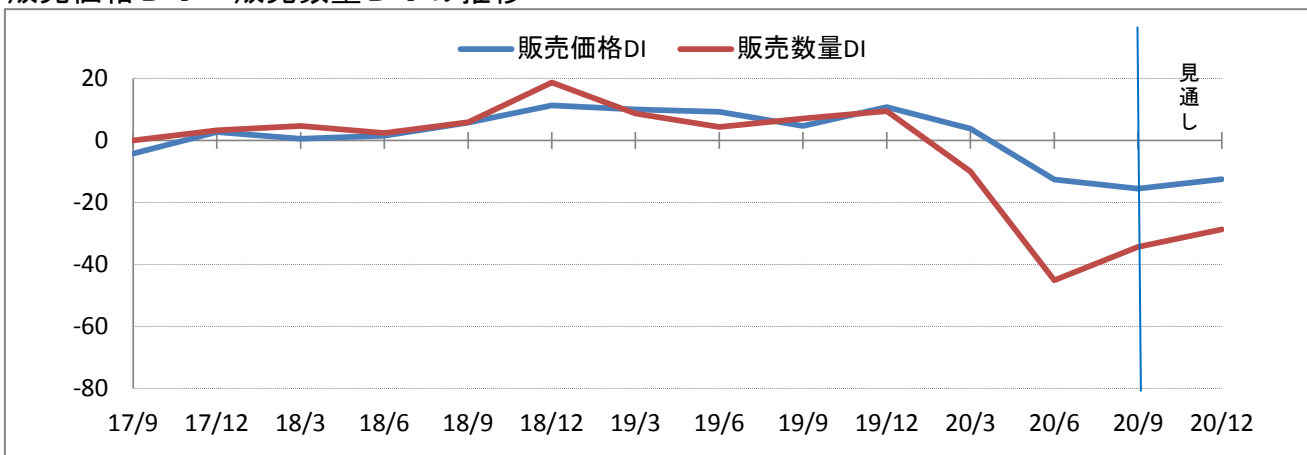
大阪の公共工事は前期比減少し、「コロナの影響で店舗の新規・改装工事が無い」などの声が聞かれます。

売上D I・収益D Iの推移

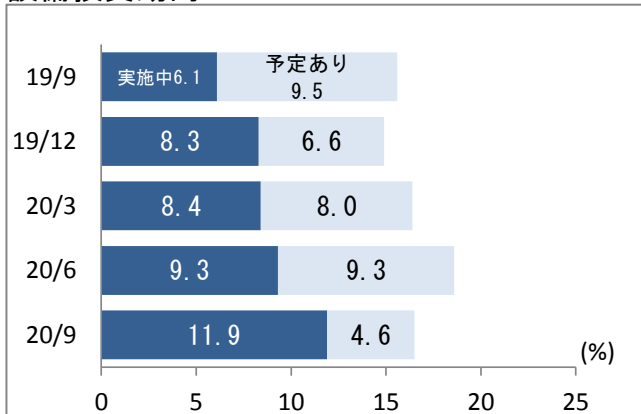
n=114



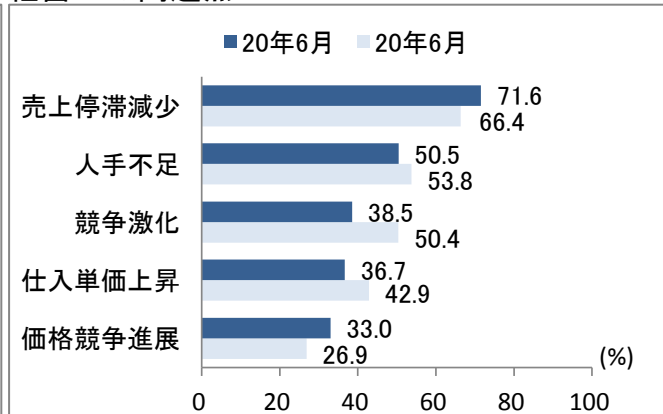
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：仲井、楠)

サービス業

多岐に亘る問題点 ニーズ多様化急増

売上D Iは-56.6（前回比+16.3ポイント）、収益D Iは-56.6（前回比+15.2ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに上昇しました。取扱品で見ると、売上D Iは、医療関係や自動車整備、介護関係で上昇しました。2020年10-12月期、売上D I、収益D Iはともにそれぞれ1.2ポイント、2.5ポイント下落すると予想し、回復基調にあるとは言えません。

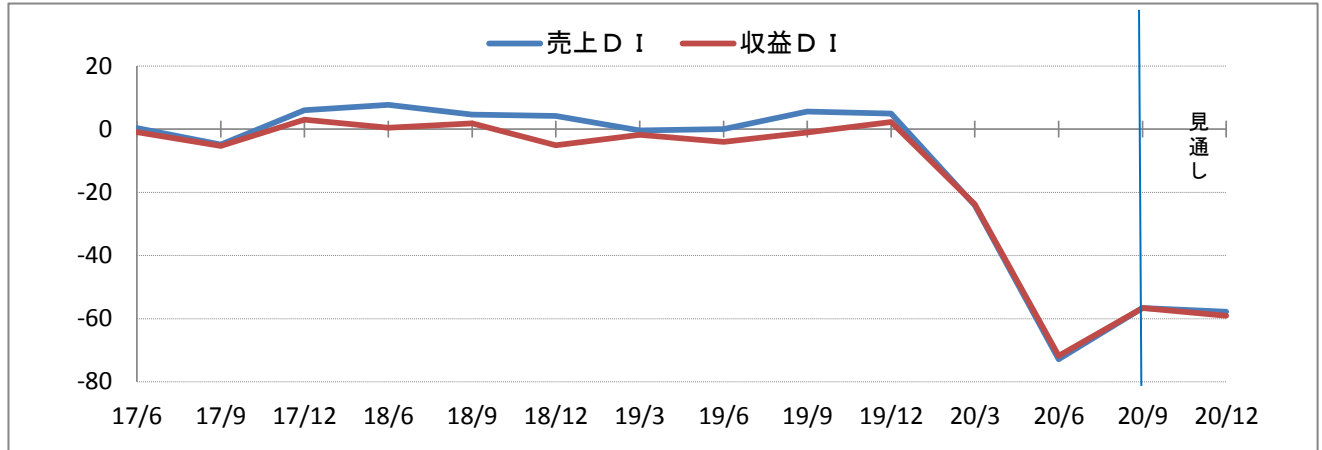
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が67.1%（前回比△2.4ポイント）と依然最大の問題点ですが、「ニーズ多様化」が44.3%（前回比+10.2ポイント）に上昇し、感染症対策など様々な要望が急増しています。

設備投資は「実施中」が11.1%（前回比△5.2ポイント）、「予定あり」が15.3%（前回比+3.7ポイント）で合計26.4%となりました。資金調達方法は、「全て自己資金」が42.0%となり、感染症対策など小規模な設備投資が中心と思われます。

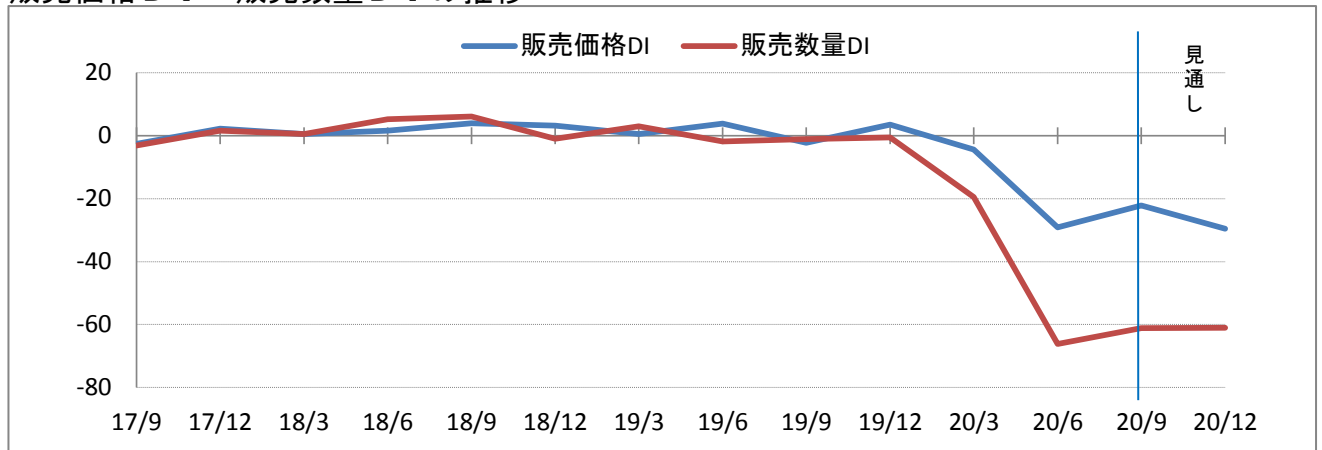
「休業して雇用調整助成金の申請中」、「観光会社が運休状態で、整備・修理に来ない」などの声も聞かれ、先行きに不安を抱えています。

売上D I・収益D Iの推移

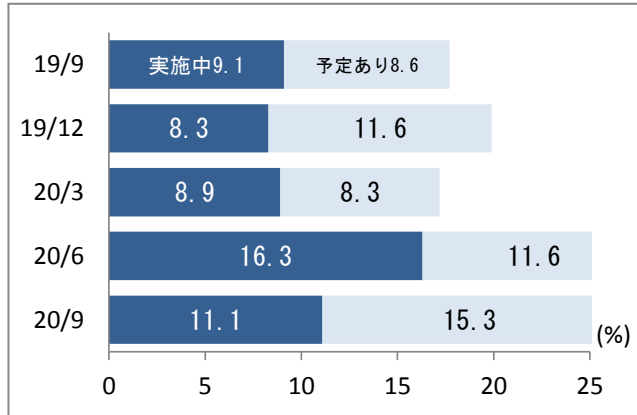
n=77



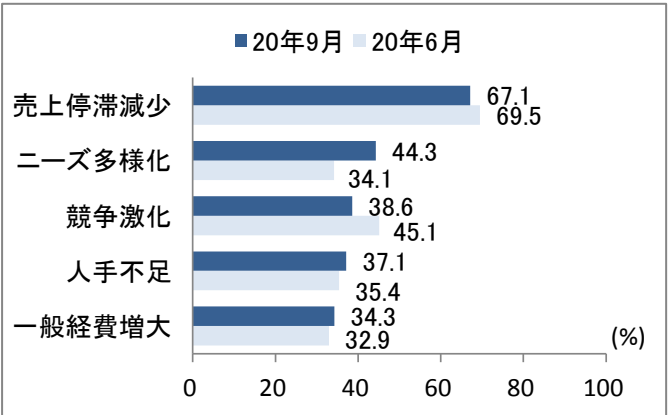
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：芝田、楠)

運輸業

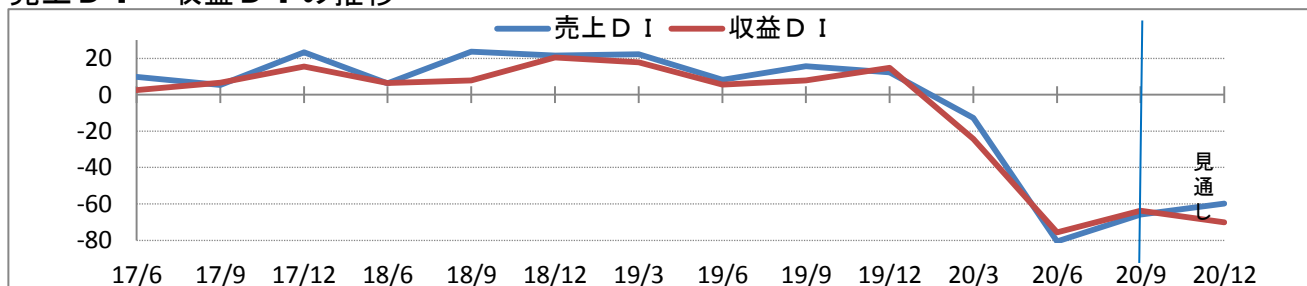
人手不足再燃か？

売上D Iは-65.9（前回比+14.7ポイント）、収益D Iは-63.8（前回比+11.8ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに上昇しました。全業種で売上D Iが上昇して物流量が少し回復し、売上D Iは上向いたと思われます。2020年10-12月期、売上D Iは6.0ポイント上昇すると予想しています。

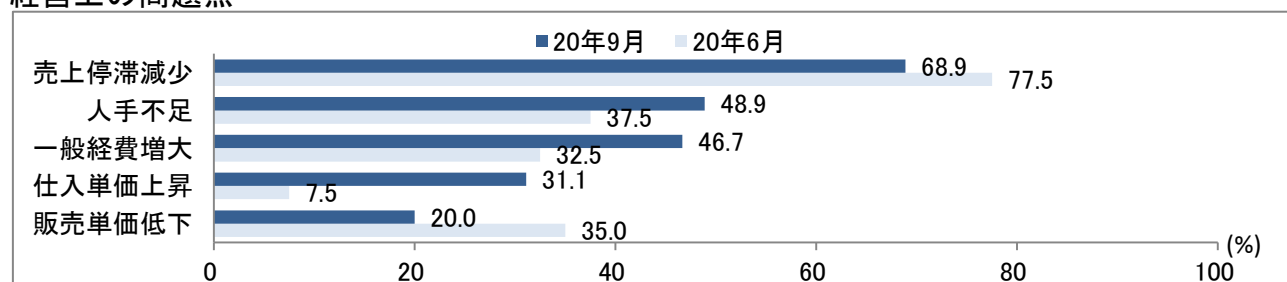
経営上の問題点は「売上の停滞減少」が68.9%（前回比△8.6ポイント）に下落する一方、「人手不足」は48.9%（前回比+11.4ポイント）に上昇し深刻化しています。

売上D I・収益D Iの推移

n=47



経営上の問題点

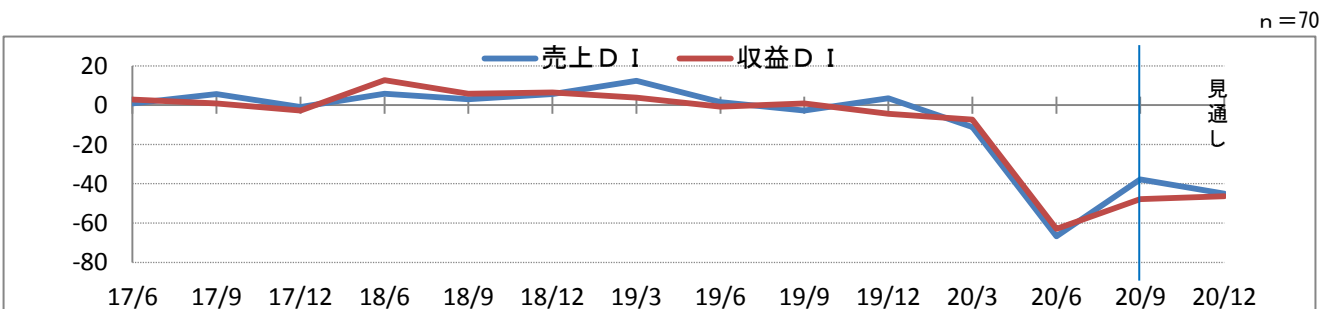


(中小企業診断士：井筒、福井)

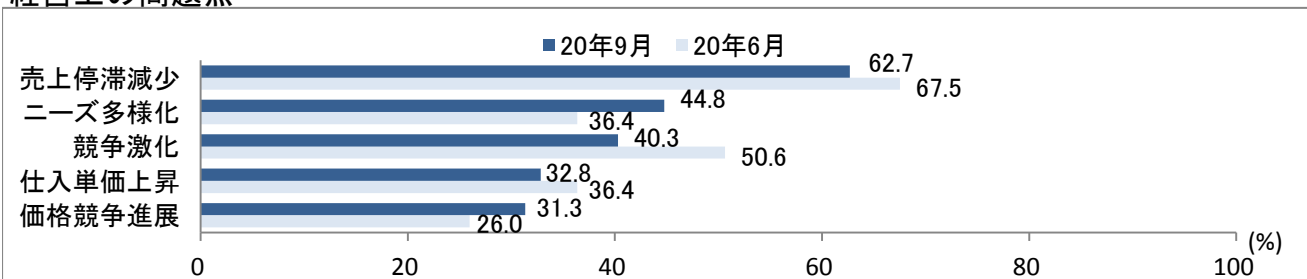
不動産業

多様化する顧客ニーズ

売上D Iは-37.8（前回比+28.9ポイント）、収益D Iは-47.8（前回比+15.1ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに上昇しました。2020年10-12月期、売上D Iは7.2ポイント下落すると予想しています。顧客からの問い合わせをはじめ新規顧客少し戻りましたが、回復の見通しは依然不透明です。経営上の問題点は、「売上停滞減少」が62.7%（前回比△4.8ポイント）と下落する一方、「ニーズ多様化」は44.8%（前回比+8.4ポイント）に上昇しました。在宅時間の増加など生活様式の変化にともない「ウィズ・コロナ時代」に対応した顧客ニーズが増加しています。



経営上の問題点



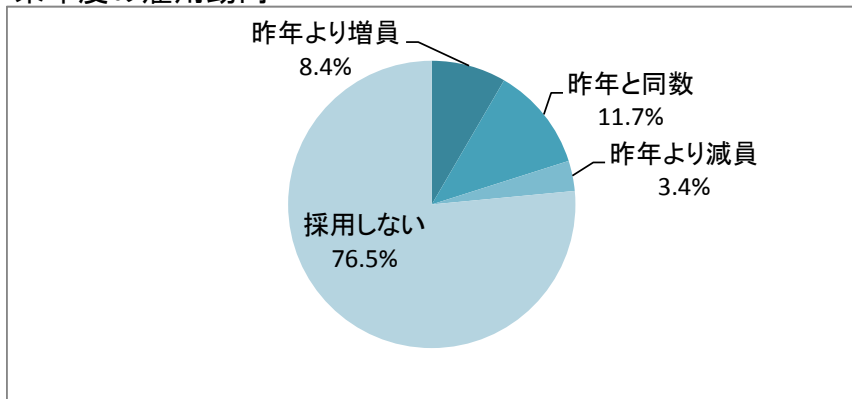
(中小企業診断士：芝田、中村)

来春の採用について

先行き不透明 採用意欲後退

来年度の雇用動向

n=758



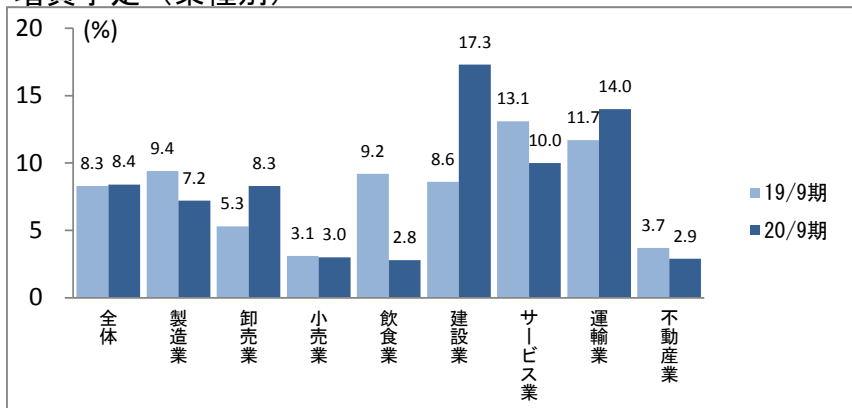
「採用する」は23.5%、「採用しない」は76.5%となり、採用に前向きな企業が前年（採用する27.8%）より減少しました。

採用する企業のうち、「昨年より増員」は8.4%（前年比+0.1ポイント）、「昨年と同数」は11.7%（前年比△5.8ポイント）、「昨年より減員」は3.4%（前年比+1.4ポイント）となりました。

新型コロナウイルス感染症の悪影響から回復の見通しが立たず、採用を控える企業が増加しています。

増員予定（業種別）

n=758



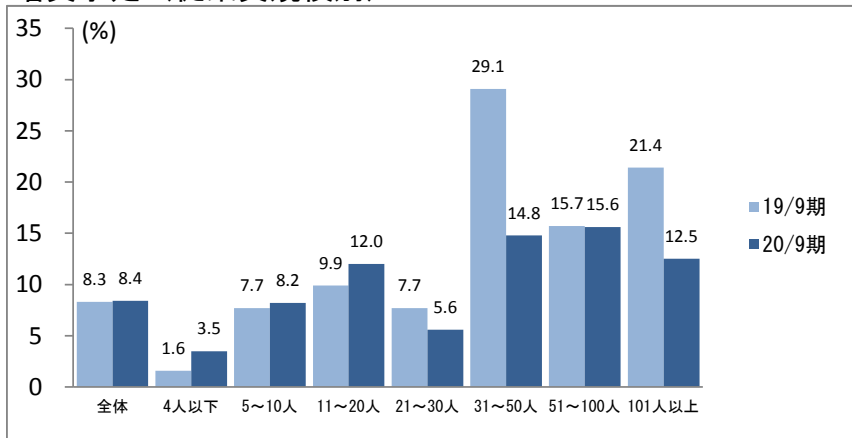
「昨年より増員」と回答した企業を業種別に見ると、建設業が17.3%、運輸業が14.0%となり前回からそれぞれ8.7ポイント、2.3ポイント上昇しました。

これらの業種では、以前から人手不足が深刻ということもあり、より採用に前向きになっています。

新型コロナウイルス感染症の悪影響が大きい飲食業では2.8%（前年比△6.4ポイント）に急落しました。

増員予定（従業員規模別）

n=758

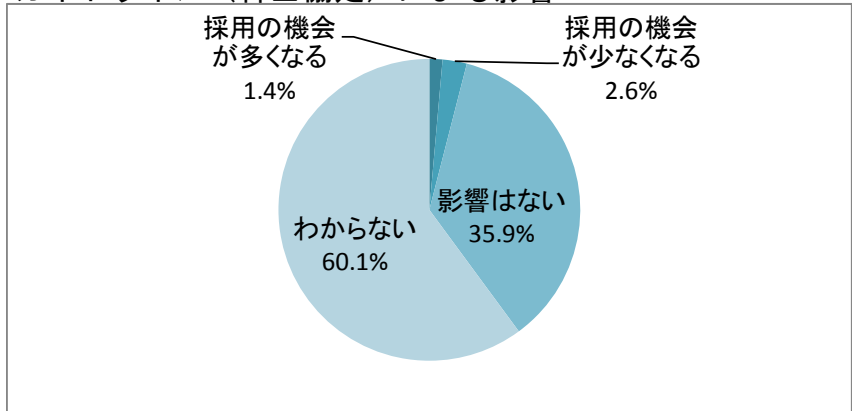


「昨年より増員」と回答した企業を従業員規模別に見てみると、上昇したのは、「11~20人」が12.0%（前年比+2.1ポイント）、「5~10人」が8.2%（前年比+0.5ポイント）、「4人以下」が3.5%（前年比+1.9ポイント）となりました。

「31~50人」の企業では、先行き不透明感から採用意欲が急落しています。

ガイドライン（紳士協定）による影響

n=736



経団連が示すガイドライン（紳士協定）が採用に及ぼす影響について、「影響はない」が35.9%、「わからない」が60.1%となり、採用機会に与える影響は小さいことが伺えます。